

# 交渉速報

J R 貨物労組本部業務部

2014年 5月 19日

No.19

**夏季手当交渉スタート！**

**基準内賃金の2.5ヶ月を要求！**

**回答指定日 6月13日 支払日 7月 7日**

中央本部は、本日13時30分より2014年度夏季手当の申し入れを行いました。申し入れにあたり中央本部は、主に3点を主張しました。

- ①平成25年度決算は34億円の経常黒字となったが、経常黒字を達成するために組合員は血を流してきた。下期通達を大幅に達成したのはまさしく組合員の努力によるものである。
- ②昨年度の期末手当は過去最低であり、8期連続の経常赤字であった時期よりも低額になっている。我々の努力への還元として要求に対して満額回答をもって応えるべきである。
- ③新中期経営計画がスタートしたが、計画達成のためには職場で働く組合員のやる気・モチベーションを向上させることが前提である。

**苦勞の還元とモチベーション向上のために満額回答を！！**

これに対して会社は、

- ①新年度は1ヶ月半が経過し、消費増税の反動がどの程度収入に影響するかを見極めている。4月は車扱が対前年92.3%と落ち込んだが、コンテナは対前年103.8%と上回ったことを考えると影響はほぼ想定内の範囲で推移しており、5月も現時点ほぼ計画通り推移している。今後、反動の影響がどこまで残るかは予測できない状況である。
- ②一方、経費面については動力費等の増加が確実であり、楽観できない。
- ③新たな経営手法としてマトリクス手法による利益管理を始めたが、効果が出るまでには時間がかかる。
- ④新中期経営計画スタートの年として、鉄道事業部門の黒字を目指していく。そのために経費についてもしっかりコントロールしていく必要がある。今後、具体的に議論を行っていきたい。と考え方を示しました。

会社の考え方に対して中央本部は、期末手当は生活給として重要なものであるが、しかし会社は手当における生活給の考え方を一方的に改めた。組合員の生活は消費税増税をはじめとする各種料金の値上げにより、非常に苦しくなっている。昨年度決算において大幅な黒字であることを十分に認識した上で手当交渉に臨むことを申し述べて、交渉を終了しました。

**この間の俺たちの苦勞を還元させよう！**

組合員の皆さん！夏季手当交渉がスタートしました。昨年度、私たちは悔しい思いをしました。私たちの苦勞に対する還元を求めるとともに、鉄道事業部門の黒字化に向けたモチベーションの向上のため、手当満額獲得を目指して中央本部は全力で取り組むことを明らかにして、第1回交渉報告とします。

以 上

次回、第2回交渉は5月22日（木）です。